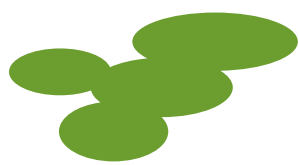


広 報

2008
平成20年



奥出雲



No.39

発行所／島根県奥出雲町役場 編集／総務課 総務係
ホームページアドレス URL:<http://www.town.okuizumo.shimane.jp>



仁多ライオンズクラブ国際認証40周年記念

仁多ライオンズクラブが国際認証を受けて今年で40年を迎え、5月25日、カルチャープラザ仁多において記念式典が行われました。

式典には、同クラブの会員44人や県内約30クラブの代表者をはじめ、溝口県知事や336-D地区の村上昭治ガバナー、岩田町長など約250人が出席しました。

同クラブは、昭和42年にライオンズクラブ国際協会336-D地区（島根・山口県エリア）の57番目のクラブとして結成されて以来、清掃活動、交通安全指導、献眼・献血活動など地域に密着した奉仕活動や国際協力などを長年にわたって行われています。

この日認証記念事業として、仁多福祉会へ軽自動車の贈呈、視力保護事業「視力ファーストⅡ」へ\$20,500（日本円で約215万円）の献金などが披露されました。

今後も、昨年結成された横田ライオンズクラブと共に、地域のリーダーとして社会奉仕活動が展開されます。

わたしたちの町

人 口	15,600人
男	7,505人
女	8,095人
世帯数	5,049世帯

6月1日現在

島根リハビリテーション学院 創立十周年記念

島根リハビリテーション学院が開校十年を迎えたことを記念して五月三十一日、カルチャープラザ仁多で創立十周年記念式典が開催されました。式典には、島根県知事代理や岩田町長をはじめ、歴代の学院長、旧教職員、卒業生、地域の方など約三百五十人が出席しました。

下山誠学院長から「昨年度、私立学校等評価研究機構によ



式辞を述べる下山学院長

る第三者評価を西日本で唯一受け、高い評価を得ました。これからも地域と共に、優れた医療技術者を育成し、社会に貢献する教育機関を目指すとともに、今後も、学生への奨学金の支給制度等さらに充実した学院運営に努めます」と式辞がありました。

来賓を代表して初代理事長の岩田町長からは「設立は、県内一ヶ所という厳しい設置基準の中で創設され、この十年間の基礎づくり、特色ある学院づくりにあたられた歴代の学院長、学院スタッフの皆さんの献身的なご努力に感謝します」と祝辞が述べられました。

また、開校から十年のあゆみを紹介するスライド上映や、横田高校出身で現在、島根大学医学部教授の内尾祐司先生による記念講演などが行われました。

同学院は、平成十年四月に県内初、また全国でも数少ない町が設立した四年制の医療技術専門学校として、これま



▲出席者全員で学院歌を斉唱

で三百九十三名が卒業し、全国各地で理学療法、作業療法のスペシャリストとして活躍しています。

平成十七年度には、文部科学省から「高度専門士」の称号を卒業生に付与できる専門学校として認可され、この高度専門士には大学院受験資格が与えられています。



▶内尾教授による講演

昔ながらの米作り

一味同心塾で田植え交流

五月二十四日、上阿井のふれあい交流館「一味同心塾」(中村成子館長)で、昔ながらの手植えを体験する「仁多米作り・田植交流会」が行われ、町内をはじめ、東京、広島、海士町、松江市などから約八十人が参加しました。

素足で入り、田植え唄が流れる中、秋の豊作を願いながら、コシヒカリの苗を一株ずつ丁寧に手植えしました。



▲手植えに挑戦する参加者

はじめに田の神様「サンバイサン」へ豊作を祈る神事が行われ、中村館長から「今年で七回目を迎え、交流を通して、環境を学ぶ良い行事。これからも次代に続く米作りにつながるよう願います」とあいさつがありました。

寧に手植えしました。今後米田の除草、秋には稲刈り、はで干しなど安心・安全・無農薬の米作りを実践します。

高齢者叙勲 旭日単光章 安部敏雄氏(佐白)

安部さんは、昭和54年から12年間仁多町議会議員を務められ、その間平成元年から平成3年まで副議長の要職を歴任されるなど、地方自治の発展と住民福祉の向上に尽瘁されました。

特に「県政百年の大計」といわれる斐伊川・神戸川の治水計画に基づく尾原ダム建設事業の円滑な推進に尽力され、その結果平成3年10月には基本協定の調印が行われ、今日この事業が順調に進展する礎を築かれました。

また、平成2年10月には(財)奥出雲多根自然博物館副理事長に就任され、現在も奥出雲町の発展に多大なご尽力をいただいています。

今回その功績により、叙勲の榮に浴されました。



町内の学校教育施設整備 着々と進む

＜横田中学校大規模改修・耐震補強＞

町内には、仁多・横田2校の中学校があり、仁多中学校については昭和47年に建築され、平成3年から平成5年までの3ヵ年で大規模改修整備が行われています。

横田中学校については、昭和48年に旧横田町内の中学校を統合して建築されて以来34年が経過し、老朽化と水道水の汚濁が進んでいたため、町では合併後、最重点事業として、平成17年度から文部科学省で国の補正予算対応して頂き4ヵ年計画で大規模改修工事、併せて耐震補強工事を進めています。

既に第1期工事(特別教室棟)、第2期工事(普通教室棟)が終了し、今年度は第3期工事(管理教室棟)の改修整備を行っています。さらに、来年度は第4期工事(体育館改修)を行う予定で、総事業費は6億8千万円です。



▲図書室



▲ランチルーム



▲実習室



▲耐震補強を施した開口部

＜横田小学校水泳プールも竣工＞

横田小学校水泳プールは、昭和55年に整備されて以来、高学年用、低学年用が併設するプールとして、横田小学校や隣接する横田幼稚園・保育所の園児などに幅広く利用されてきました。



▲改修された横田小学校水泳プール

しかし、建築後28年が経過し、プールの塗装面の損傷が著しく、水が白濁するなど度々使用を中止。また更衣室及びトイレの屋根がコンクリート劣化により崩落するなど大変危険な状態でした。

そこで、平成19年度に水槽を補修・強化するとともに、シャワーユニットの設置や下水道へ接続するなど整備を行いました。

安全で、使いやすく、親しみやすいプールとして完成し、今シーズンからたくさんの子供たちが利用します。

▶新緑の自然を満喫◀ 船通山ブナ林自然観察会



▲自然観察指導員から説明を受ける参加者

新緑深まる六月一日、船通山でブナ林自然観察会が開かれ、県内外から約三十人が訪れました。

参加者は、亀石コース駐車場を出発すると、自然観察指導員の説明のもと、船通山の植生について語り合い、自然の空気を満喫、鳥のさえずりを楽しみながら登山を行いました。

ブナ林は船通山をはじめ、吾妻山、大万木山など県内ではわずかしが残っており、その高い保水機能と地域のみずがめとしての水源かん養機能の重要な役割を果たしています。

参加者は自然の大切さを学び、自然と共生していくことの大切さを改めて実感していました。

第四回 奥出雲町

小学校連合体育大会

五月二十一日、第四回奥出雲町小学校連合体育大会が三成運動公園陸上競技場において開催されました。

好天の中、トラックとフィールドでは二十五種目が行われ、町内小学校の三年以上の児童全員が参加しました。

児童達は、日頃の練習の



▶元氣いっぱい力走

成果を存分に発揮し、自己記録への挑戦、他校との親睦を深めました。

会場には多くの保護者や関係者が訪れ、元氣いっぱいに走る児童に熱い声援を送っていました。

なお、今大会では十種目で新記録が生まれました。



斐伊川で水辺の教室

子どもたちがアユを放流

魚の住めるきれいな川を守ろうと横田公民館と斐伊川漁協横田支部では、昭和六十三年から毎年水辺の教室を開いています。

五月十二日には、横田幼稚園と横田小学校の三年生約六十人が参加し、横田庁舎裏の斐伊川河川敷でアユの稚魚二千匹を放流しました。

勢いよく飛び跳ねるアユに苦戦しましたが、みんなで協力し、稚魚が大きく育つよう願いました。

子供たちは今後、斐伊川の水質検査や宍道湖の清掃などを行い、環境について学ぶ予定です。



▶アユの成長を願い放流

平成二十年度

第二回 奥出雲町肉用子牛共進会開催

平成二十年度の第一回奥出雲町肉用子牛共進会が六月六日、仁多中央家畜集会所において開催されました。

当日は町内九地区から選ばれた四十一頭の肉用子牛が、審査員によって個体審査、比較審査されました。

審査結果は次のとおりです。



▲首席に輝いた「ふくひらしげ7号」

【成績表】

成績（序列）	名 号	出品者	地区
特選賞 首席	ふくひらしげ7	森山 義治	馬木
特選賞 次席	かねひら	丸山 常義	横田
特選賞 三席	ゆうひろ6	小池 俊彦	横田
特選賞 四席	いちよう	児玉八重子	鳥上
特選賞 五席	あやね	部田 泰久	八川
団体優勝	三 成 支 部		

尾原ダムでどんぐりの森づくり 児童たちが苗木600本を植樹



▲コナラの苗木を植える児童たち

保育所園児が 茶摘み体験

五月二十七日、町内の保育所園児約三十人が、三成保育所の茶畑で茶摘み体験交流を行いました。

この交流会は、自然の中の活動を通して自然の恵みを感じ取り、命の大切さを知ってほしいと昨年に行われています。

園児たちは、先生や地域の人に教わりながら一生懸命新芽を摘み取り、他園の友達と交流を深めました。



六月五日、建設工事が進む尾原ダムの奥出雲町山方地区で、斐伊川上流と下流の小学校十二校の児童ら約二百八十人が参加して、コナラの苗木約六百本を植樹しました。

この植樹は、国土交通省、県、雲南市、奥出雲町、斐伊川くらぶでつくる実行委員会が主催して、平成十二年から毎年行われています。

昨年までに延べ百三十七校、約三千四百人の小学生が参加し、六千本を超えるどんぐりの苗木が植樹されています。

はじめに斐伊川・神戸川総合開発事務所の中川哲志所長

などから、ダムの役割や森を育てる大切さについて説明があり、参加校を代表して、寺領小学校児童から「心を込めて未来まで残るどんぐりの木を植えます」と宣誓がありました。

児童は、法面をシャベルで掘って、竹ボットに入った十五センチほどのコナラ苗を植樹し、一人ひとりが願いを書いた記念プレートを添えていました。

また、午後からは植樹祭に参加した小学校による交流会が行われ、斐伊川流域全体の交流がより一層深まりました。

ふるさと奥出雲町を応援して下さる皆様へ

「奥出雲町ふるさと応援基金」を創設しました

ご支援をよろしくお願いいたします

奥出雲町では、自然、歴史、文化や伝統に恵まれた奥出雲町の末永い充実・発展を目指すために『奥出雲町ふるさと応援基金』を創設しました。ふるさと奥出雲町を愛し、応援していただける個人や団体の皆さんから広く寄附金を募集します。

寄附金は、以下の事業に活用させていただきます。

- (1) 人口定住・結婚対策に関する事業
- (2) 出産・子育て支援に関する事業
- (3) 自然環境・環境保全に関する事業
- (4) 観光振興に関する事業
- (5) 教育・文化・スポーツ振興に関する事業
- (6) その他町長が定めた事業

○寄附の方法

- (1) 寄附金申出書にご記入の上、郵送、FAX、E-Mailでご送付ください。

《郵便送付先》 〒699-1592 島根県仁多郡奥出雲町三成358番地1

奥出雲町役場 企画財政課 《FAX》 0854-54-1229

《メールアドレス》 zaisei@town.okuizumo.shimane.jp

※寄附金申出書の用紙は、町のホームページ（<http://www.town.okuizumo.shimane.jp/register/register/post-230.html>）からダウンロードできます。

- (2) 後日、奥出雲町役場から「納付のご案内」を郵送いたしますので、①専用払込票（ゆうちょ銀行用）、②専用納付書（指定金融機関用）、③口座振込、④現金書留、のいずれかの方法で入金をお願いします。
- (3) 入金確認後、奥出雲町から寄附に係る領収書を発行いたします。個人住民税の寄附金控除を受けることができますので、確定申告時にお使いください。法人税の寄附金控除については、所在地の各税務署にお問合せください。

○お問合せ先

- ・ 寄附の方法や事業の内容について・・・（企画財政課） 0854-54-2522
- ・ 個人住民税寄附金控除について・・・（税 務 課） 0854-52-2671

※この案内は、寄附を強要したり、見返りや恩典により寄附をお願いするものではありません。
※『奥出雲町ふるさと応援基金』をかたった寄附の強要や詐欺行為には十分にご注意ください。

有線電話番号
〔名義変更〕
○上嶋倉（81-1401）
吉川 喜義（吉川 義人）
吉川 義人
○稲田（20-1651）
岩佐 和雄
岩佐 博史（岩佐 和雄）

平成20年度島根県狩猟免許試験が実施されます

○試験日時：平成20年 7 月13日（日）午前9時30分～

○開催場所：雲南市木次町里方55 チェリパホール

○試験科目：適性試験、知識試験・技能試験

【お問合せ先】

島根県東部農林振興センター雲南事務所（総務・鳥獣スタッフ）まで
電話：0854-42-9556 F A X：0854-42-9650

島根りハビリ学院生と 地元児童が田植え交流



▲素足になって苗を植える学生と児童たち

島根りハビリテーション学院の一年生五十九人と高尾小学校の全校児童十六人が五月十四日、高尾地内の水田で手植えによる田植え体験をしました。

同学院では、「協働力実習」の授業で自然に親しみ共感の力を育て、協力することの大切さを学ぶことを目的に四年前から行われています。

八畝の水田に入ると、横一列になり、もち米「コシノエモチ」とうるち米「コシヒカリ」を地域の人から丁寧な指導を受けながら、一株ずつ植

えていきました。

今年は高尾小学校の全児童と一緒に、終始和やかな雰囲気で行われ、年代を越えた交流を行いました。

学生からは「足がはまって大変だったけど、みんなと一緒にできてよい思い出になった」、「昔ながらの手植えを初めて体験し貴重な経験になった」など感想がありました。

今後、田車、稲刈り、脱穀など仁多米づくりの体験やわら草履づくりなどの実習を行います。

本格的な登山シーズン到来

玉峰山 山開き

霊峰・玉峰山安全祈願祭が五月十一日、亀嵩観光文化協会や亀嵩公民館、NPO法人祥雲の会の主催で行われました。

祈願祭には、岩田町長をはじめ、地元関係者や町内外の登山者など約百名が出席し、シーズン中の安全と玉峰山が多くの人で賑わうよう祈りました。

このあと、登山者は新緑のなか山頂を目指しました。また、下山した後は、地元ボランティアによる山菜のてんぷらが振る舞われました。



▶ 神事の様子

要害山山城祭



▲「三献儀」の様子

戦国武将三沢氏の遺徳を偲び、登山者の安全を祈願する要害山山城祭が五月二十五日、三沢城跡保存会の主催で行われました。

神事はまず、古くから禊ぎの水として言い伝えられている三澤池で清めの水を汲む「お水取り」の儀式を行い、場所を三沢公民館に移して多くの来賓、地域住民など約六十人が参列し、山開きの神事が行われました。

また、三沢小学校児童らが鎧兜を身にまとい武者行列が行われ、今回は武士が出陣の際に行っていた「三献儀」が勇壮に披露され、式典に彩りを添えました。

奥出雲町文化財 保護専門委員決まる

五月三十日、奥出雲町文化財保護専門委員九人が決まり、委嘱書が交付されました。任期は二年間で、町内にあり文化財の調査や保存並びに活用に関して専門的、技術的事項の研究にご尽力いただきます。

専門委員さんは次のとおりです。

- ・ 杉原 清一さん（会長）
- ・ 福田 充雄さん（副会長）
- ・ 吉川 昌治さん
- ・ 家熊 猛さん
- ・ 木原 明さん
- ・ 田部 英年さん
- ・ 児玉 敏郎さん
- ・ 藤原 克己さん
- ・ 相良 英輔さん



▲尾原ダム発掘調査現場視察の様子